

いいぐらの記憶を継承し、地域の拠点となる『木造交流施設』を共に作ります



[南面区道側外観パース]



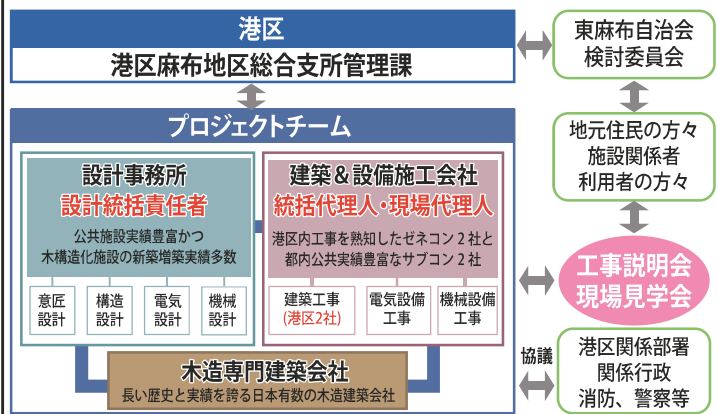
[北面園庭側外観パース]

- ・飯倉小学校の歴史を調べると、明治11年の開校から昭和28年に竣工した4代目の校舎までが木造で、切妻屋根が印象的です。
- ・今回の施設の顔となる南側は、旧小学校の記憶を継承する、切妻屋根をモチーフとします。

- ・北側は、隣接する校舎棟やマンションへの圧迫感を低減し、園庭の広がりを生み出す寄棟屋根とし、大きく張り出した軒裏と外壁に木仕上げを施します。
- ・外壁、軒天、サッシなどの木を多く取り入れた、利用者の親しみやすい外観デザインを計画します。

1 (1) 設計施工・BIM災害対応 地域のご期待に応える盤石の設計・施工体制

- ・本プロジェクトに対し、設計事務所、施工会社の他、国内有数の木造建築専門会社を加えた特別なチームを編成します。



2 (1) 設計施工・BIM災害対応 定期的な会議による要求水準・課題の管理・進行共有

- ・私どもは、50か月に渡る事業全体を通して、あらゆる関係者との「対話と協働の精神」を重視します。

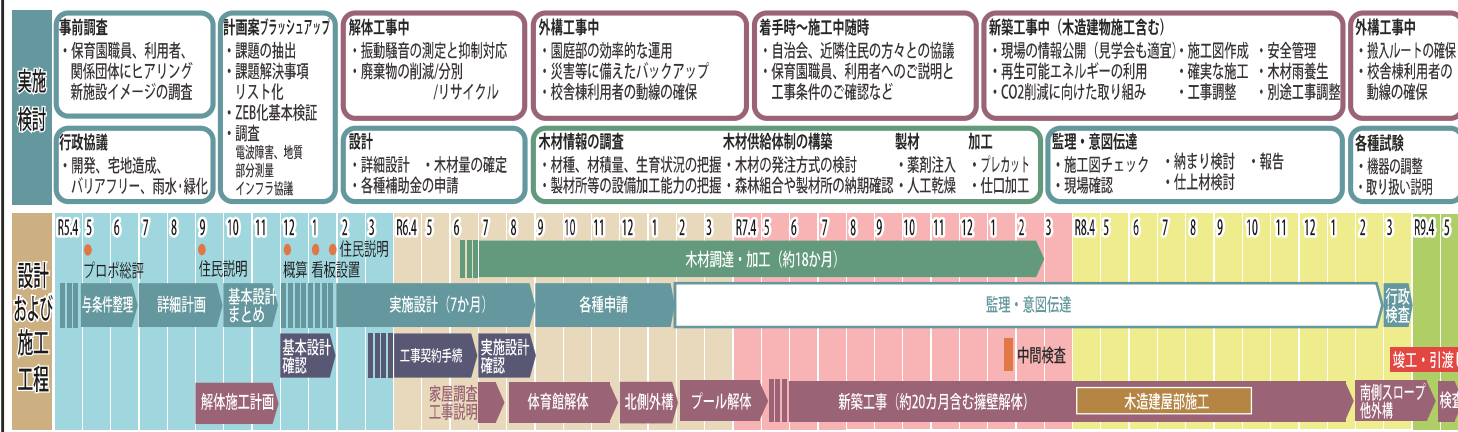
主な会議体	頻度	実施事項
プロジェクト会議	月1回	要望確認・提案実現の進捗報告
設計定例会議 (設計段階)	隔週	専門職会議、設計の意思決定、課題共有、地域要望整理、コスト調整会議
施工総合定例会議 (施工段階)	月1回	全体工程・進捗状況の確認、近隣対応の共有
施工定例会議 (施工段階)	週1回	専門職会議、設計意図伝達、施工計画の共有、(変更時) 調整会議

工程	基本設計見直し	実施設計	施工
設計	意見交換会	実施設計	監理・技術指導
施工	情報共有	校舎棟利用者近隣説明	情報共有
DR	DR1	DR2	DR5

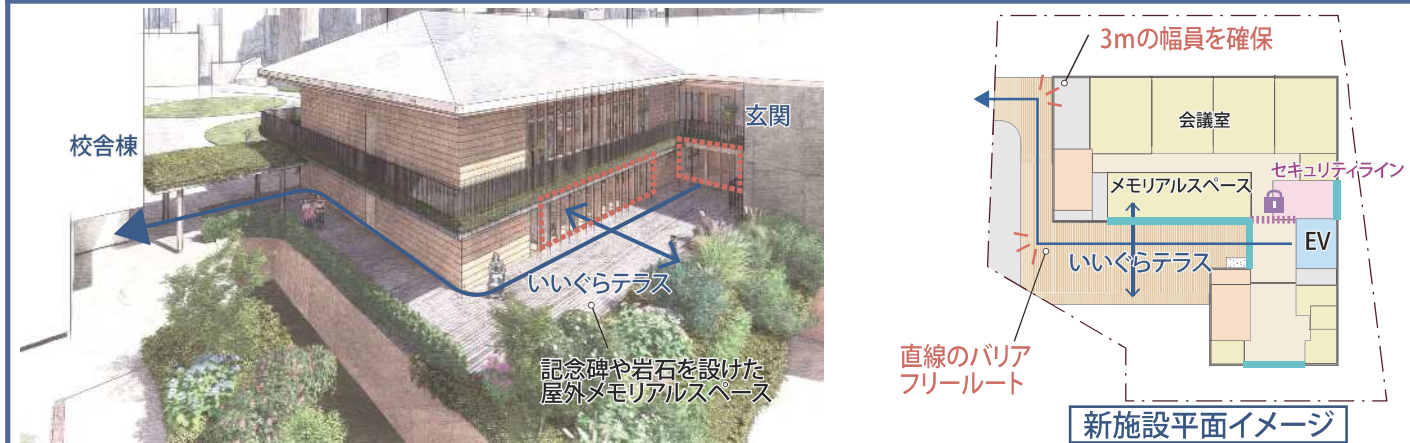
※DR:各社の設計検討

3 (2) 工程管理 開業準備を円滑に進める、ゆとりのある事業スケジュール

- ・設計初期段階から、港区様や施設関係者、地域の方々との意見交換・ヒアリングを重点的に行ない、計画をブラッシュアップします。設計の骨子を令和6年4月にまとめ、木材調達に着手します。
- ・初期段階から解体工事の計画も進め、解体も加味した合理的な実施設計を行い、工事期間の短縮を図ります。



校舎棟と新施設をつなぐ、バリアフリールート



- ・1階のエレベーターホールに面して玄関を設けます。校舎棟まで直線的で分かりやすいルートを計画することで、セキュリティラインが明確になり、新施設閉館時でも保育園等へのバリアフリー動線を確保します。
- ・ロビー・メモリアルスペースを開放的な空間とし屋内外を有機的につなぐ「いいぐらテラス」と名付けた1階屋上デッキに対し、間口を広く取り、屋内外のつながりを強化します。

4 (3) 仮設計画居ながら工事 (4) 地域対応 校舎棟利用者の立場で安全や環境に配慮した施工

- ・工事車両の出入りは北側の国道から、校舎棟の利用者は現状のまま南側区道からとすることで、動線分離を図ります。最後の南側スロープ工事のみ、校舎棟利用者の出入りは国道側へ切り替えます。
- ・校舎棟北側にある既存発電機等の撤去・新設については、撤去前に新しい設備を設置し、切替作業を極力少ない回数で行う他、給排水やガス管の盛替えも同様に配慮し、既存施設への影響や災害対策の機能不全を最小限にします。



- 凡例**
- : 校舎等利用者動線
 - : 解体・新築工事エリア
 - : 仮囲い
 - : 工事車両搬出入経路
 - : 既存建物
 - : 仮設足場
 - : 災害時緊急用避難経路
 - : 園庭利用可能エリア
 - : 敷板鉄板養生部
- 緊急用(避難等) パネルキャストの設置
 - 照度と安全性の確保
 - 歩道と車路を区分し、誘導員を配置
 - 木造部分施工時のラフタークレーン設置位置

日常の中で自然を感じられる、木造福祉施設ならではの空間づくりを目指します



【自然光が差し込み陽の移りを感じるホール】

【開放的な小屋組み表しの居間・食堂】

【木の温みがある快適な居室】

【自然光あふれる木漏れ目ホール】

【旧校舎の面影を感じるメモリアルスペース】

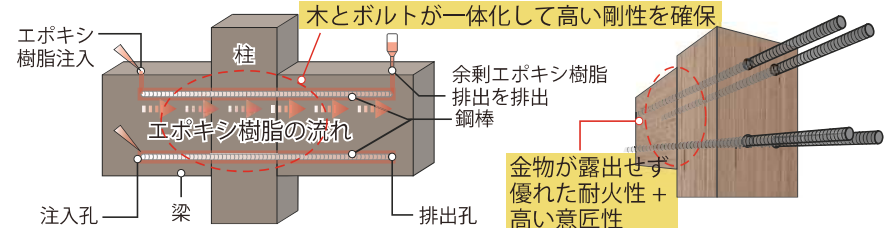
【木材の温もりあふれるいいぐらテラス】

5 将来的な間取り変更にも対応した耐火木構造

- 木の構造材は、「1時間認定耐火材」と石こうボード等の不燃材で被覆した「メンブレン仕様」を併用します。
- デザインとコストを両立させるため、木の構造体を「見せる範囲」と「隠す範囲」に分け、メリハリをつけた計画とします。

	メンブレン仕様 (被覆型)	認定耐火材 (燃え止まり型)	鉄骨内蔵型
断面イメージ			
確認申請上の構造	木造	木造	鉄骨造
使用箇所	構造を見せない部分に採用	木構造を見せる部分に採用	木造建築とならないため不可

- 接合ボルトは木材内部に隠れるため、金属部の露出がなく、火災時の耐火性に優れます。金物が見えないため意匠性も高いです。

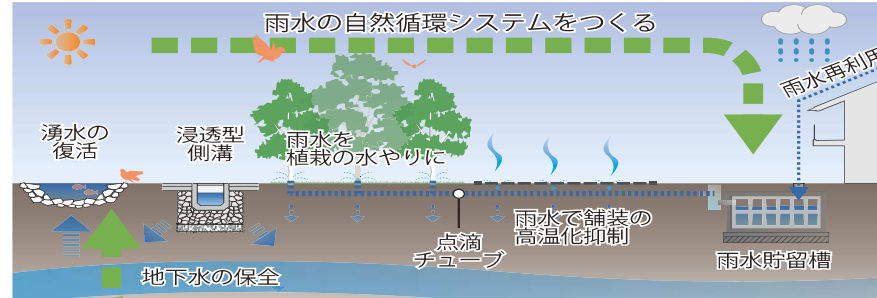


- 調達先は、木造専門会社が持つ幅広いネットワークを活かし、協定自治体を優先しつつ、全国各地から調達予定です。



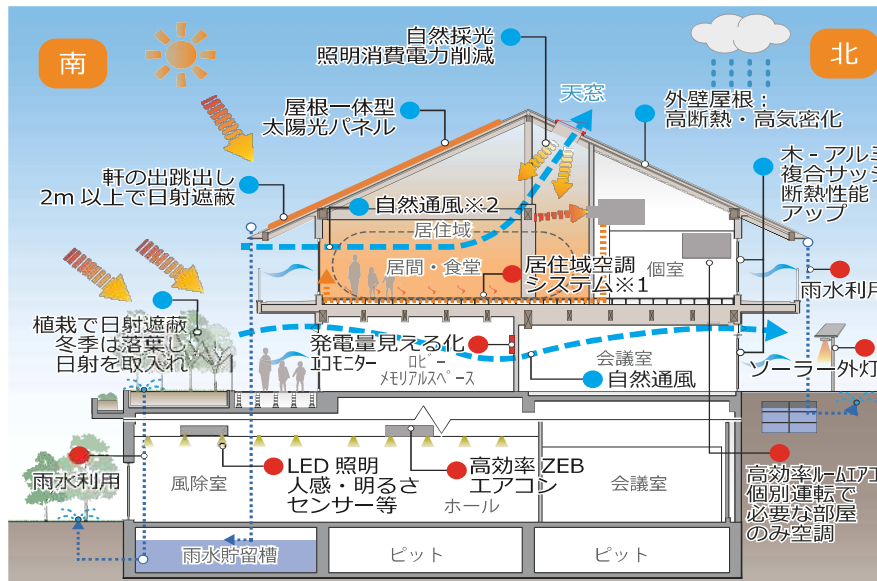
6 自然エネルギーを最大限利用したエコ建築

- 園庭に貯留槽を設け、点滴チューブで舗装や植栽帯に浸透させ、雨水、水資源を有効利用します。



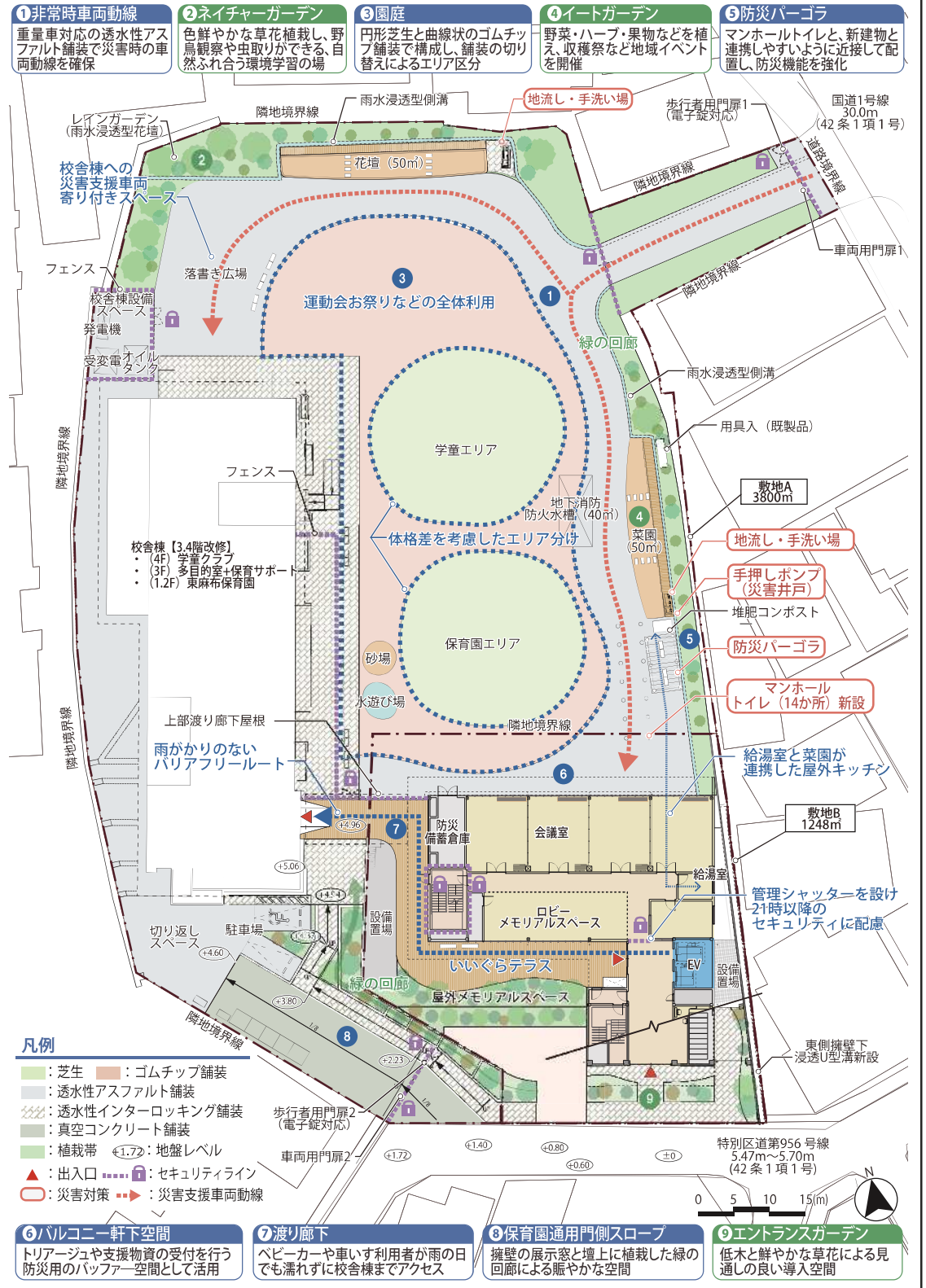
- 庇などによる日射遮蔽や、南北の開口による自然通風、屋根天窗の自然採光と排熱など、パッシブデザインを積極的に行います。

- 大空間の居間・食堂は、人が居る高さまでの「床放射冷暖房」とし、無駄を削減するほか、空調集中管理コントローラーを採用し、スケジュール運転とデマンド制御が行えるようにします。



7 日常の居場所と災害時の安心安全の両立、エリア全体で多彩な交流を促す外構計画

- 外構には個性の異なる3つの庭を設け、生物観察や野菜作り、季節ごとの花が咲く庭で多様な交流を促します。【外構イメージ249】
- いいぐらテラス、軒下空間、会議室、駐車場など日常の施設利用が災害時の備えになります。
- インフラ途絶時にも自然エネルギーの活用で最低限の建物機能が発揮できる計画とします。



- 1 非常時車両動線: 重量車対応の透水性アスファルト舗装で災害時の車両動線を確保
- 2 ネイチャーガーデン: 色鮮やかな草花植栽し、野鳥観察や虫取りができる、自然ふれ合う環境学習の場
- 3 園庭: 円形芝生と曲線状のゴムチップ舗装で構成し、舗装の切り替えによるエリア区分
- 4 イートガーデン: 野菜・ハーブ・果物などを植え、収穫祭など地域イベントを開催
- 5 防災パーゴラ: マンホールトイレと、新建物と連携しやすいように近接して配置し、防災機能を強化
- 6 パルコニー軒下空間: トリアージや支援物資の受付を行う防災用のバッファ空間として活用
- 7 渡り廊下: ベビーカーや車いす利用者が雨の日でも濡れずに校舎棟までアクセス
- 8 保育園通用門側スロープ: 擁壁の展示窓と壇上に植栽した緑の回廊による賑やかな空間
- 9 エントランスガーデン: 低木と鮮やかな草花による見通しの良い導入空間